

## 第3回 成瀬ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場

### － 議事概要 －

- 開催日時 平成23年10月20日（木）10:00～12:00
- 場所 秋田河川国道事務所 2F 大会議室
- 出席者
  - 構成員 秋田県副知事（知事代理）、秋田市副市長（市長代理）、横手市副市長（市長代理）、湯沢市長、大仙市長、羽後町長、東成瀬村長
  - 検討主体 東北地方整備局河川部長、秋田河川国道事務所長、湯沢河川国道事務所長

### ● 討議概要

#### 1. 検証対象ダム事業等の点検について

意見なし

#### 2. 複数の治水対策案の立案について

- ・ 大震災を踏まえ防災体制の整備、強化が行政に求められている。
- ・ 治水では全川河道掘削による案も示されているが、膨大な工事量や550haの用地買収などは現実的に可能なのか、どのくらいの期間を要するのか。今回の6月と7月の豪雨で秋田県でも相当の被害があり、住民からも1日も早い治水対策の強化が求められていることから、時間軸についても的確に評価していただきたい。
- ・ 河川整備計画が未策定のため、河川整備計画相当案で提示されているが、いつ「河川整備計画案」になるのか。
- ・ 河道掘削が全ての項目に入っているが、今後の検討で無くなるのか。一部が残ることになるのか。
- ・ 流域全体の流量からみて成瀬ダムは一部でしか無いのであれば、河川整備計画相当案を早く「河川整備計画案」にできないのか。そうでないと中流無堤部が遊水地にされるのではと不安である。
- ・ 成瀬ダムでは、県で発電する計画になっているが、水力発電の可能性の観点から2倍3倍の発電所となった場合、ダムの諸元や構造は大きく変わるのか。

- ・大震災以降再生可能なエネルギーの開発が我が国の喫緊の課題であり、水力発電の開発は重要性が増してくるが、ダムによる水力発電の効果が検討のスキームに含まれないのはどうか。比較検討の際には、発電に対する効果も評価していただきたい。
- ・海岸保全の観点から侵食や土砂供給に関する項目は、検証に入っていないのか。
- ・雄物川の沿川は農村地帯であり、また流域が広い河川であることから、全体としては住居が散在している。雄物川の場合、散居的に住んでいるという概念を代替案の検討の中に入れていただきたい。
- ・大水田地帯なので、森林の保水力と同じように、水田の保水力・保水機能は洪水に対してガードする、洪水を遅らせる効果があることを表現できないものか。
- ・（雄物川上流部は）現在施工中の鶴巣築堤が完成すると、小さい河川以外はだいたい守られる。後は山田堰に着手していただけるとありがたい。
- ・横手市は結構水害のあるところであったが、大松川ダム完成後は、大きな水害は起きていない。
- ・人家を守るという考えはもちろんであるが、農村は水田の1年1作が生活基盤となっていることから、農地被害が少なくなるようなことを強めに出してもらいたい。

### 3. 複数の利水対策案の立案について

- ・地下水については、詳細な調査が必要であるということを前提として検討されているが、地下水の取水による地盤沈下やその安定性について、大きな懸念を持たざるを得ないことを理解していただきたい。
- ・いかに現実的な対策をとる必要があるかということが問題であり、地下水について、地盤沈下や将来にわたっての安定的な取水ができるか。このような不安定な要素は排除していく必要があると思う。
- ・用地関係について、成瀬ダムでは長年かかって運動してきたものがある中で既に相当遅れているのに、代替案をこれからやるとなると、具体的に動くのはいつになるのか全く見えない状況の中では地域の納得は得られないと思われる。そうした観点で評価検討を進めていく必要がある。

- ・地下水についての検討はいいが、実際に地下水の吸い上げが安定的にできず、一つの村を地下水から上水に切り替えた例もあるため、地下水の安定性に対する不安が現実にあることを検討の際に考慮していただきたい。
- ・人口減少とか企業の転出による検証の結果、水道事業の利水量が少なくなった。

#### 4. パブリックコメント等について 意見なし

#### 5. その他

- ・大震災や水害を受け、迅速な防災対策が国民的な課題として求められているため、この検討についてもスピードを上げてやっていただきたい。

(平成 23 年 10 月 28 日 事務局とりまとめ)